

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	その他飲食 [サービスエリ ア内レストラ ン]（支配人）	来客数の動き	・高速道路料金引下げが開始されて2か月経過し、繁忙対応もかなりできるようになり、売上も向上している。
	やや良く なっている	商店街（代表 者）	お客様の様子	・ゴールデンウィークと定額給付金のおかげでやや良かった。一時的なものかもしれないが、こんなカンフル剤的なものがなければ良くならない。
		一般小売店 [靴]（経営 者）	販売量の動き	・月初めは大売出しをやったために売上は例年以上に伸びた。しかし終わりごろになって新型インフルエンザのため、来客数が減少した。
		百貨店（購買担 当）	お客様の様子	・相変わらず紳士、インテリアといった高価なものは厳しいが、婦人服、婦人雑貨、婦人靴については母の日を境に良く動き始めた。また暑くなったこともあって、婦人服ヤングゾーンの商品が夏物を中心に順調に動いている。さらに定額給付金が給付されたことで、プレミアム付き商品券を使っの買物も順調に推移しており、売上も少しずつ上がっている。
		スーパー（店 長）	販売量の動き	・新型インフルエンザの影響で来客数は減少したが、1人当たりの買上点数は増えており、客単価もまた上昇している。
		コンビニ（エリ ア担当）	それ以外	・一部のスーパーなどでは開店前から行列ができ、休日には店舗前の道路は車で混雑している。
		衣料品専門店 （店長）	お客様の様子	・初旬から中旬にかけて新型インフルエンザの影響で来客数が減少したが、徐々に盛り返してきた。気候のせいもあるかと思うが、必要なものは購入する客が増えてきた。
		家電量販店（店 長）	販売量の動き	・エコポイント制度が5月15日より始まり、今まで買い控えられていた薄型テレビ、冷蔵庫、エアコンの動きが活発になっている。
		家電量販店（店 員）	来客数の動き	・国の景気対策、エコポイント制度の導入などにより、来客数が増え、売上も前年をかなり上回った。
		家電量販店（予 算担当）	販売量の動き	・エコポイントのスタートが良い刺激となっている。现阶段では効果は限定的であるものの、お客様の反応は悪くない。
		乗用車販売店 （営業担当）	来客数の動き	・新車購入補助金や、優遇税制などのおかげで客の購入意欲が増加している。ただ、本当は買換えたくないが、車自体が寿命を迎えているため、仕方なく買換える客も多い。
		乗用車販売店 （販売担当）	販売量の動き	・政府の補助金支援の後押しもあり、新型車の販売が順調に推移している。
		自動車備品販売 店（経営者）	販売量の動き	・3月以降のETC特需以来、タイヤ等の主力商品の売上も前年を上回るペースとなってきており、堅調に推移している。底は脱したかといった状況である。
		その他専門店 [時計]（経営 者）	販売量の動き	・景気が良いとは決していえないが、昨年暮れから年明けの頃よりは幾分か安定している。しかし、この状態が続くと考えれば、事業を縮小していくしか、生き延びる方法はない。
		一般レストラン （経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィークの地域イベントの人数が、前年とは比較にならないくらい多かった。
		通信会社（営業 担当）	お客様の様子	・客からの問い合わせ等が少し増えている。
		テーマパーク （広報担当）	来客数の動き	・団体客は減少しているが、個人客の伸びがあり、全体的には来客数増となっている。
		住宅販売会社 （経理担当）	来客数の動き	・販売イベントの来客数が徐々に増えている。ただし住宅に充当する予算は相変わらず厳しく、長期優良住宅や太陽光発電等への優遇措置はあるものの、効果は資金に余裕がある客に限定される。
		変わらない	商店街（代表 者）	来客数の動き
	商店街（代表 者）		来客数の動き	・市の中心部、また私の店舗にもこのところ外来の客が少し増えている感じがある。売上には大した影響はないが、やや上向きになっている傾向が見られる。ただし長続きするかどうかは分からない。

商店街（代表者）	来客数の動き	・当市では、高速道路料金引下げによって入ってくる人間より、出て行った人間の方が多い。
一般小売店〔茶〕（経営者）	販売量の動き	・相変わらず、低調な動きである。客や商店街の人たちもこのような状況に慣れてきている。
一般小売店〔印章〕（営業担当）	お客様の様子	・今年は休みが多かったために売上は前年ほどなかったが、法人関係の注文が出始めている。
百貨店（営業担当）	来客数の動き	・前半は売上が回復してきたようだったが、中旬、近県で新型インフルエンザが発生し、平日の来客数が激減した。また特別商談会や催事への来客数も、大きく減少した。
百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・先月で下げ止まったと思ったが、今月も前年比で93～94%台で推移しており、回復の兆しが見られない。周辺のショッピングセンターの状況も同様で、特に休日の落ち込みが激しい。高速道路料金引下げの影響で、家族連れが郊外に出かけて、市内中心部に人が来ていない。
百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・新型インフルエンザの影響でマスクや空気清浄機の動きが良く、またエコポイントの影響でテレビなども良く動いた。しかし衣料品は二けた減と相変わらず厳しい状態が続いており、景気回復が実感できない。さらに初めて開催した紳士婦人服の1,000円引き取りセールが大盛況だったなど、客の価格に対する見方はシビアである。
百貨店（売場担当）	販売量の動き	・購買単価も下がり、イベントの来客数も伸びず相変わらず低迷している。
スーパー（店長）	来客数の動き	・このところの、低単価を訴求したチラシなどの販売強化により、来客数が前年を5%程度上回っている。ただし利益は伸びない。
スーパー（店長）	単価の動き	・買上点数は変わらないが、1点単価が落ちている。
スーパー（総務担当）	販売量の動き	・販売点数は大きな落ち込みもなく推移しているが、単価の下落が中々吸収できない。このため売上ベースでは前年並みとなっている。
スーパー（経理担当）	来客数の動き	・来客数、売上とも伸び悩みである。
スーパー（経営企画）	単価の動き	・5月21日現在の既存店の客単価は、前年比98.6%でこの傾向が続いている。
スーパー（販売担当）	販売量の動き	・客の買上点数が低調に推移している。
コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・ゴールデンウィークは大型店を中心にまずまずの売上があったが、5～10%の値下げをしたため月の半ばは厳しい状況が続く、下旬は暑くなったこともあって低迷した。新規店もなく、多業種で同じパイを取り合っており、ディスカウントショップの1人勝ちといった様相である。
衣料品専門店（地域ブロック長）	販売量の動き	・初夏物の売行きはピークが例年ならゴールデンウィークの前半に来るのだが、今年は4月中旬の気温が高かった時期に売れたためか、例年並の売上がなかった。
乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・ハイブリッド車だけが好調で、その他は前年の6～7割といった状況が続く、まだまだ浮揚には程遠い。
乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・5月は減税対象車が売れ、純受注では前年を上回っている。
乗用車販売店（店長）	販売量の動き	・新型車の投入とエコカー減税の効果で、来客数はかなり増えたが、販売までは結び付いていない。
乗用車販売店（サービス担当）	販売量の動き	・前年の販売台数の85%ぐらいで推移している。
乗用車販売店（統括）	来客数の動き	・景気の悪い話はないが、取り立てて悪化したということもない。むしろ客は必要なものにはしっかり支出しており、これから景気が回復していく雰囲気がある。
その他専門店〔布地〕（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィークと高速道路料金引下げによって観光地はにぎわったようだが、私の店は来客数が少なかった。連休後も、新型インフルエンザのため、引き続いて少なかった。

	都市型ホテル (従業員)	来客数の動き	・レストランなどは店舗ごとに波があるものの、前年並みの来客数だが、宿泊はインフルエンザの影響のため苦戦している。
	都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・宿泊については、今年はゴールデンウィークの日並びが良かったことと、高速道路料金引下げの影響で家族旅行が増え、稼働率、人数とも増えたが、後半は新型インフルエンザの影響で修学旅行が中止、延期となり、前年と同程度の数字になった。
	都市型ホテル (総務担当)	販売量の動き	・新型インフルエンザによる影響があった。また、企業は競合他社との間で競争させることで経費を絞っており、厳しい予算を提示してくるために、予約が取れなくなっている。取れたとしても客単価が相当低くならざるをえない。
	通信会社(総務担当)	お客様の様子	・昨年同期と比べると契約数の減少幅はやや小さくなっているが、獲得件数の伸び悩み、解約件数の高止まりの状況に変わりがない。
	テーマパーク (管理担当)	来客数の動き	・来客数の推移に変化はない。
	ゴルフ場(営業担当)	単価の動き	・周辺の同業者も含め、まだ単価をダウンすることによる競争を続けている。
	競艇場(職員)	販売量の動き	・来客数、売上とも横ばいである。
	美容室(経営者)	お客様の様子	・引き続き、来店する客の仕事はまだまだ活発には動いていないという印象を受けることが多い。
	設計事務所(経営者)	お客様の様子	・建築物価は落ち着いてきたが、景気の先行きが不透明なので、建築主はプロジェクト再開の決断ができない。
	設計事務所(経営者)	来客数の動き	・いろいろ動いているが、なかなか受注につながらない。
	設計事務所(経営者)	競争相手の様子	・建設業者の廃業倒産が変わらず続いている。また転業もなかなか進まない。
やや悪くなっている	一般小売店[紙類](経営者)	来客数の動き	・観光客が高速道路料金引下げの影響で増えたが、新型インフルエンザの影響で大きく減った。ただしインフルエンザの騒ぎが落ち着けば回復するだろうから、そう心配はしていない。
	一般小売店[酒類](経営者)	お客様の様子	・ゴールデンウィークの遠出による支出のせいか、新型インフルエンザによる影響が、5月の連休後から客の動きが悪く低迷しており、景気が上向いている感覚はない。得意先の飲食店も低調である。
	一般小売店[酒類](営業)	販売量の動き	・ゴールデンウィークの反動か、消費意欲が低下している。料飲店の売上も少なく、先月のような雰囲気がない。
	百貨店(営業担当)	お客様の様子	・販促活動を追加実施するなどの対応をしているが、客の反応は鈍く、売上は伸びない。
	百貨店(販売担当)	来客数の動き	・新型インフルエンザの影響で、来客数が減少している。また集客力のある催事を開いても、客は必要なもの以外は購入しないため、以前のようなシャワー効果は見られなくなっている。
	百貨店(売場担当)	来客数の動き	・上旬に定額給付金関連のプレミアム付き商品券が発売され、ゴールデンウィークから中旬までは前年並みに推移したが、中旬以降客足が激減し、売上が急降下している。
	スーパー(店長)	来客数の動き	・ここ3か月、来客数は前年比98%、買上件数は96%と前年実績を下回る状況が続いている。
	コンビニ(エリア担当)	単価の動き	・タスポ効果がなくなり、以前より客単価も落ちている。ただし、ひどく悪いかといえばそれほどではなく、あまり悲観的にはなっていない。
	コンビニ(エリア担当)	来客数の動き	・来客数を前年比で比べると11%減少し、売上は13%減少している。タスポ効果切れもあるが、それ以上に来客数が減少した影響が大きい。
	コンビニ(エリア担当)	単価の動き	・原価が安くなり、商品単価が下がっている。買上点数も減少している。
	衣料品専門店(経営者)	お客様の様子	・辛抱疲れした常連客の一部に、やっと動きが出てきた。
衣料品専門店(地域ブロック長)	販売量の動き	・景気が悪く、二極化が進んでいるが、やっぱり単価の安いものが良く出ており、高価なものは客が良く研究し、賢く買っている。また新型インフルエンザの影響で、来客数が減少している。	

	家電量販店（店長）	お客様の様子	・定額給付金、エコポイントは追い風になっている。特にエコポイントは訴求力があるが、客はその内容をはっきりと把握していないことから、中々購買に結び付かない。
	家電量販店（店長）	お客様の様子	・5月15日から実施のエコポイントの対象となるテレビ、冷蔵庫、エアコンは動きが良くなってきているが、その他の商品については逆に鈍くなってきている。
	その他小売（営業担当）	単価の動き	・小額商品の割合が増加した。
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・特にここしばらく変わったことはなく、来客数が減少し続けている。
	スナック（経営者）	お客様の様子	・これから悪くなるといっている客が非常に多く、これから良くなる期待は持てない。
	その他飲食〔ハンバーガー〕（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィークを過ぎてから来客数が減少している。新型インフルエンザの影響からか、店舗によっては二けたの落ち込みがあった。
	観光型ホテル（スタッフ）	それ以外	・修学旅行シーズンに入ったものの、新型インフルエンザの影響を受けて、予定のキャンセル、日程変更などの影響が出ている。
	観光型ホテル（経理総務担当）	来客数の動き	・ゴールデンウィークは高速道路料金引下げによる効果で来客数も売上も増加したものの、その後のインフルエンザ騒動によるキャンセルが大きく影響して、前年比でマイナスとなった。
	都市型ホテル（経営者）	単価の動き	・宿泊の予約率が良くなく、まだまだ企業の経費削減が続いている。また、レストラン営業においても、高単価商品は売れず、低単価商品ばかりが出る。来客数の減少にも歯止めが掛かっている。
	タクシー運転手	来客数の動き	・ここ2か月大変悪くなり、町は客待ちのタクシーであふれている。また、ホテルに宿泊するビジネス客は少ない。
	タクシー運転手	それ以外	・依然として景気が上向き気配はない。客の財布のひもは固く、昼夜を問わず出足が非常に悪い。初夏を迎えて気分が開放的になることで多少動きがあるかとも思ったが、それもなし。また、飲食店でも、店を閉めているところが目立つ。地域のイベントや、12年に1度の伝統行事もあったが、タクシーには特に影響はなかった。
	タクシー運転手	販売量の動き	・売上ばかりでなく、運行回数も減っている。
	タクシー運転手	販売量の動き	・早朝・深夜の出張でもバスなどの公共交通機関を使うよう、従業員に指示する企業が増えてきた。また新型インフルエンザのためか、やや明るくなったと思った乗客の表情も、また暗くなった。さらに、売上も前年比で12～13%減少した。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・不況といわれている最中だが、客の来店する周期が長くなってきている。競争も激しくなり、ダンピング合戦が始まっている。
	美容室（経営者）	競争相手の様子	・同業者と話をして、どこも来客数が減少している。このままでは安い店だけが生き残りそうである。
	設計事務所（経営者）	販売量の動き	・新築住宅の問い合わせ等が減少しており、また客の資金計画の内容も悪化している。
悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・定額給付金のために一時的には家族での来店が増えたが、すぐに元に戻った。また、夕方以降のお客が減ってきた。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・関与しているクレジット組合の実績が上旬非常に悪かった。ただし一番悪かった3月中旬から4月中旬ほどではなく、今は、滑走しているが、飛び立っていないところである。
	商店街（代表者）	販売量の動き	・オーバーストア、少子化、デフレの三重苦にあえいでいるが、特にデフレ傾向に拍車がかかっていて、客のマインドは冷え切っている。もうデフレスパイラルといった生易しいものではなく、もっと恐ろしいことになりつつある。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・商店主の生の声を聞いていると、子供はいるが後継者にできないのが現状であり、このままでは商店街は淘汰され、消滅しそうな危機感を感じる。

	百貨店（売場担当）	販売量の動き	・ゴールデンウィークは靴の下取りセールやキャッシュバック、アウトレットセールで徐々に前年並みをキープしたが、インフルエンザ問題で急失速、一気にマイナス基調に拍車がかかった。前年の88%の売上となり、近年にない3か月連続の落ち込みとなった。
	スーパー（店長）	単価の動き	・1人当たりの買上点数が落ちてきている。今まで10点以上買っていた客も、今では10点を切るようになり、買いたくても買えないという状況にある。
	スーパー（店長）	競争相手の様子	・大型商業施設の出店で、近隣の大型、小型の量販店がポイントや目玉商品を乱発しており、客の動向が分散してしまっている。
	スーパー（財務担当）	単価の動き	・需要が低価格商品にシフトしているためか、既存店の1品単価が97.4%になり、客単価が98.2%になっている。
	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・タスポ効果も1年が過ぎ、全体の売上は前年を大きく下回っている。来客数の減少以上に、客単価の低下、商品単価の値下げが売上に大きく影響している。
	衣料品専門店（販売促進担当）	販売量の動き	・前年より来客数は伸びているが、客単価が下がっている。ゴールデンウィークは前年より来客数も伸び、売上も伸びたが、ゴールデンウィーク明けから来客数が落ち苦戦した。暑くなってメンズの動きが出たしたが、値段に敏感になっている客が目立っている。
	住関連専門店（広告企画担当）	来客数の動き	・買い控えが進んでいる。お金をできるだけ使わないでおこうという意識が表れている。
	一般レストラン（店長）	来客数の動き	・休日のファミリー層の来店が減っている。外食回数そのものが減少している。
	旅行代理店（営業担当）	それ以外	・インフルエンザの影響を受け、予定のキャンセルなどが多発し、大変苦慮している。
	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・3か月前より、来場者数は3割減となっている。
企業動向関連	良くなっている やや良くなっている	-	-
	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・先月まで受注見通しは不透明だったが、徐々に受注の兆しが出てきた。
	窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・大口のスポット案件の生産が集中して、生産量は好調であった前年同月並みの実績があった。部門によっては臨時休業部門もあるが、残業を指示している部門もある。
	通信業（部門長）	取引先の様子	・光回線等主力商品の受注状況の変化は少ないが、客から「景気が悪いから投資は控える」という断りがなくなってきた。
	金融業（業界情報担当）	取引先の様子	・主要取引先では、中国向けの生産が前年比で増加に転じ、欧州向けはドイツの自動車買換え支援政策もあって増加傾向にあるが、主力の北米向けの輸出低迷が継続しており、全体で工場の操業度は前年比6～7割程度となっている。
変わらない	木材木製品製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・住宅市況に回復感がまだない。
	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注減により工場の稼働率は依然として低く、今後の見通しが立たない。
	鉄鋼業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・エレクトロニクス材料の受注は、若干戻りかけているものの、自動車産業からの受注は低調であり、今後も不透明である。
	非鉄金属製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・一部電子素材で在庫調整の反動が見られるが、全般に需要は低迷したままである。
	金属製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量は、前年比50%減の状況が今年1月から続いている。雇用調整助成金を活用しているが、依然として厳しい。
	電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・自動車関連の受注はわずかながら回復の兆しが出てきている。今後の見通しも不確定部分が多く、様子見の状況となっている。
	輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・地元の自動車産業が相変わらず低迷している。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・全ての取引先が、悪いままで推移している。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・民間設備については、業況の見極めが難しいため中止、延期の案件が出ている。

		金融業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・非常に悪い状況は変わらない。特に運送業は、工場の低稼働により運ぶものがなく、自動車関係は半分以下、書籍関係は10%以下といった状況である。
		会計事務所（職員）	取引先の様子	・毎年5月は連休の影響もあり、販売業の売上高は他の月よりも低くなる所が多いが、今年はその傾向が例年になく顕著に現れている。
		コピーサービス業（管理担当）	取引先の様子	・案件が上がってこない。取引先の担当者の反応は「外部に依頼する仕事は皆無、先の見通しもない」というのが大半である。
やや悪くなっている		食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・価格を上げたせいか、売上が下がっている。前年よりは上がっているのだが、当社の計画には少し達していない。
		一般機械器具製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・海外向けの自社製品の売上が、北米並びにアジア向け（特に韓国、台湾）の受注が大幅に減少しており、売上の伸びは見られず、引き続き厳しい。
		その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・注文数も微妙であるが、特に販売価格面が非常に厳しくなっている。前年前半までは高付加価値商品ということもあり、ある程度高価格でも売上を維持できたが、現在は定価を下げないと売れない。
		不動産業（総務担当）	それ以外	・来客数や成約件数が落ち込んでいる。
悪くなっている		農林水産業（従業者）	それ以外	・今月と3か月前を比較すると、沖合い底引き船、大中型巻き網船が減少したため、水揚げ数量で1,418tの減少、水揚げ金額は1,873万円の減少である。
		食料品製造業（業務担当）	受注価格や販売価格の動き	・売れ筋の商品が明らかに低価格のものになり、商品の販売量も低下している。
		繊維工業（統括担当）	受注量や販売量の動き	・夏物、特に半袖のシャツが全く売れない。
雇用関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	人材派遣会社（担当者）	周辺企業の様子	・主に製造業企業において、2～3月よりは稼働状況は回復しつつあるという話を聞くようになった。
	変わらない	人材派遣会社（営業担当）	周辺企業の様子	・人員削減のため現場が回らず、止むをえず派遣依頼をする企業がやや見受けられるようになった一方で、5～6月も帰休を継続して行っている企業（主に自動車関連）も多数ある。
		求人情報誌製作会社（支店長）	採用者数の動き	・中途採用の動きには、まだまだ回復の兆しが見えない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・周辺の企業では、依然として売上は低いレベルで推移している。当新聞社の広告売上もスポンサー企業側の単価が下がるなど厳しい状態で、今のところ上向き気配はない。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・求人数や求人倍率は減少傾向にあるものの、企業の求人意欲は高まっている。紹介の督促も一時期よりは増加した。
		職業安定所（雇用開発担当）	求人数の動き	・有効求人倍率の低下傾向に歯止めが掛からない。特に製造業職種の中途採用を再開しようとする動きは、今のところ見られない。
		民間職業紹介機関（職員）	求職者数の動き	・相変わらず派遣出身者の登録数が増加しているものの、紹介先が無い状態が続いている。好況期には求人を出しても応募さえ無かった10数名規模程度の企業にも、今では20～30名が応募してくる。
	やや悪くなっている	求人情報誌製作会社（担当者）	採用者数の動き	・新卒向けの合同企業説明会の参加社数が、減少傾向にある。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・今年の4月以降、求人窓口に来所する事業所の数が目に見えて減少している。情報通信業では、コールセンター業務に関わる受注がないため、求人も止まっている。また、飲食店、小売業からの求人も前年比で減少している。
	悪くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人で特に減少幅の大きい製造業では、前年比で5割減となっている。また消費者の節約志向の高まりにより、宿泊業・飲食サービス業の求人減少も特に顕著となっている。
		民間職業紹介機関（職員）	それ以外	・物流・倉庫業の大手企業において、扱ひ商品の数量が減ったために、非正規雇用者と8時間労働の契約ができずにいる。雇用者はその日の1日にある仕事量が終了した時点で労働がおしまい、この労働時間に応じて賃金が支払われている。